

NHK番組偏向問題

町村派総会で批判噴出

NHKスベシャル「シリーズJAPANデビュー」第1回「アジアの『二等国』」(5日放送)の偏向・歪曲報道問題が、23日の自民党町村派総会で取り上げられた。放送直後から、日台双方で批判が噴出している問題に、政界が本格的に取り組み始めた。

番組は、日本による台湾統治について、日台間の格差と同化という矛盾を抱え、皇民化運動で日本文化を強制したなどと放送した。

町村派総会では、まず司会の稲田朋美衆院議員が「あまりに一面的な番組で驚いた。日本統治時代の反動的な部分だけを、いわば偏向して報道するのはいかがなものか」と口火を切った。

続いて、会長の町村信孝元外相も「その番組は私も見た。率直にいうと、私も首をかしげた。今のマスコミの偏向ぶりはみなさん感じていると思う」と続いた。

この後、総会はマスコミ非公開となったが、出席者によると、中山成彬元文科相が「台湾に行く」と、台湾の人々は(生涯を台湾発展に尽くした)八田興一さんをはじめ、日本に感謝している」といい、「私が会長をやっている議連『日本の前途と歴史教育を考える議員の会』で、NHKに公開質問状を出したい」と発言した。

安倍晋三元首相も「あの番組はおかしい。(JAPANデビューは)シリーズとして続くと聞いている。(議員の方々は)関心を持って見ていただきたい」と呼びかけた。

同局HPによると、5月3日放送予定の第2回は「天皇と憲法」となっている。